特定非営利活動法人
富山県防災士会　会報
（ 日本防災士会・富山県支部 ）

第 43 号
令和 7 年 11 月 1 日
発　行　富山県防災士会
連絡先　090-3240-3821
（事務局長：小林格之）

令和 7 年度　富山県総合防災訓練

9 月 28 日（日）令和 7 年度富山県総合防災訓練がメイン会場を南砺市城南パーク（城南屋内グラウンド）・城端中学校体育館周辺、サブ会場を砺波市富山県西部体育センター周辺・油田地区として開催されました。砺波平野断層帯東部を震源とするマグニュード 7.0 の地震が発生、南砺・砺波両市で震度 6 強を観測した想定で行われました。今回の訓練は、これまでの自己 PR 型展示ではなく、住民、特に親子をターゲットとした来場を目指し、体験型学習を目的としたものでした。本会のブースにはサポートや見学者を含め全体で約 30 名の参加者でした。

午前 8 時からの城端体育館での避難所設営訓練では、小学校児童・要支援者（障害者・外国人）を含め訓練が行われ、障害者フォーラムのサポートには割山理事をはじめ 6 名がサポートし、富山県国際課の外国人対応では防災士 3 名がサポートしました。午前 9 時からの城南屋内グラウンドの啓発展示ブースでは親子対象の新聞紙で作る防災グッズづくりが行われました。

また初の試みとして、富山大学の安江准教授を講師に、県職員、本会会員 5 名のサポートのもと、18 名の住民とともに「防災まち歩き」が行われました。JR 城端駅から会場までの 1 時間半のコースで、過去の水害現場、崖地、断層や流雪溝等の災害を学び、住民の方々も改めて災害の恐ろしさや災害の備えを考えるキッカケとなるものでした。

今回の防災訓練は、住民や特に親子をターゲットとした来場を目指し体験型学習を目的とされていましたが、啓発展示・ワークショップでは、本会ブースも含め、他ブースと重複するものがあり、本会ならではの工夫が必要と感じました。県南西部を担当する防災士として今回の結果を今後の課題としてスキルアップに努め、地域防災への備え、住民の安全な暮らしの為に、活動に取り組んでいきたいと思いました。　（記　野原光昭）

日本防災士会北信越連絡協議会総会

7 月 20 日（日）北信越連絡協議会総会が長野市豊野町豊野防災交流センターで開催されました。富山県支部からは吉澤理事長以下 4 名が出席しました。長野県支部から上程された令和 6 年度活動・収支決算報告及び令和 7 年度活動計画・予算案は全会一致で可決されました。

総会終了後の懇談で、吉澤理事長から来年度の富山県開催地としての挨拶がありました。総会後、令和元年の千曲川決壊地近くの曹洞宗妙笑寺へ移動し、妙笑寺の笹井妙音様による講話「被災から復興へ」があり、水害の過酷さとその後の皆様からの暖かい支援により復興に至ったことをお聴きし、人の支えの大切さを感じました。　（記　小林格之）

「ぼうさいこくたい 2025 in 新潟」の概要

■「ぼうさいこくたい」 って何？

防災推進国民大会（通称　ぼうさいこくたい）は、内閣府等が主催し、産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表し、交流する日本最大級の防災イベントです。平成 28 年から開催され、令和 7 年（第 10 回）は、9 月 6 日（土）・7（日）、新潟県新潟市の朱鷺（とき）メッセで開催されました。新潟県は、平成 16 年中越地震等を経験しており、その経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えることが目的です。

■どんなイベントだったの？

62 セッション（防災について学ぼう）
26 ワークショップ（防災について体験できる）
186 ブース展示（防災について知ろう）　等

■キーワード

地震・火山、土砂災害、風水害、自助・共助 、地域防災、避難･避難所、ボランティア、災害教訓・伝承　等

■新しい発見

その 1：ペットとの同伴避難時は 3 つの備えが必要
①「同行避難」の備え⇒日頃からの適正飼育

② 避難所以外での「分散避難」先への備え
⇒ペットは自宅の安全な場所で飼育
③ 避難所敷地内での「同伴避難」の備え
⇒ペットは避難所内別居（ケージ必須）

その 2：ロングライフ牛乳というものがあるが、期間は 3～4 か月だから、ローリングストックが必要。
その 3：子供用にハザードマップゲームというものがある。子供からの防災教育が大切。
その 4：セーフメットというものがある。頭を押すとペシャンとコンパクトになるヘルメットだ。大丈夫!?
その 5：災害対策士という民間資格あり。
(3 文字で DMS：Disaster Management Specialist）等

■感想

片道 4 時間かかりましたが、行った甲斐はありました。知らなかった防災ノウハウがたくさんあり、機会がありましたら「ぼうさいこくたい」に行きたいと思いました。

（記　江尻泰将）

「ぼうさいこくたい」に足を運んで

今回のぼうさいこくたいは、中越地震等の経験を持つ新潟県での開催とあって、シンポジウムや被災地の現在を知るツアーも含め、災害の教訓を次世代に伝える企画が多く見られました。愛子内親王殿下がご臨席され、会場には緊張感と敬意が漂ったものの、防災に関心がなかった方が会場内に足を運び、展示を見ている姿もあり、防災の重要性を社会に広く伝え、参加者にとって大きな感動と誇りとなったようです。

見学参加した本会メンバーは事例発表や最新技術の展示、ワークショップなどに積極的に参加し、新潟県防災士会をはじめとする防災関係の団体との交流も深まり、今後に向けた話も交わされました。また、富山県内企業の出展もあり、技術や製品の情報交換もさかんに行われていました。参加したセッションでは能登半島地震の教訓を踏まえた発表、男女共同参画・多様性に配慮した避難所運営、被災地支援のあり方、そして平時からの備えの重要性について、様々な話を聴くことができました。富山県も自然災害のリスクを抱える地域です。「防災は人と人とのつながりが支えになる」という言葉を胸に、今後は隣県を含む広域での連携を視野に入れるとともに、地元に根ざした活動の必要性を強く感じました。

（記　村上綾子）

とやまの元気ボランティア NPO フェスティバル展示参加

10 月 18 日（土）富山県民ボランティア総合支援センターと富山県社会福祉協議会富山県ボランティアセンターが主催する「とやまの元気ボランティア・NPO フェスティバル」が総曲輪グランドプラザで開催され、富山県防災士会として初めて参加しました。このイベントは今回で 37 回と歴史ある大会で、参加団体は県下 38 の NPO 法人またはそれに準ずる団体でした。

私が今日まで参加した各種イベントの多くが民間の企業や事業所でしたが、今回新しい体験ができ、来場者も一般の方が多いと感じました。参加団体の中には情報交換等、今後繋がりが持てる団体も多くあり、来年以降も参加したいと思います。

（記　宮本雅文）

会員紹介

増井 かおり（富山市）

昨年の元日、夫の実家がある輪島市へ独りで帰省途中、土地勘のない輪島市街地で能登半島地震に遭い被災しました。発災直後から夫などと携帯電話が繋がらなくなり、家族の安否も不明・情報も途絶した中で、今度は辺りからサイレンが鳴り響き大津波警報が発令したと分かり、命からがら輪島市役所 5 階屋上に必死に駆け上がりました。

日没後、今度は近くで火災が発生。地元の避難者の会話から「輪島朝市の火災」だと知り、家族の安否も分からず独りでいる中で、次々と身の回りで起こる災害に恐怖と絶望感に支配されながらも自分にできる事を行おうと、輪島市役所内に避難してきた高齢者の介助等をしました。その後、家族と市役所内で奇跡的に再会し、3 日間劣悪な環境と食事・水なし・情報がない状況で避難生活を送り、日ごとに状況が悪化する中で、富山に帰る決心し、子供を車に乗せて、満身創痍の身体と悪路と渋滞の中 8 時間以上かけて、富山市に帰ってきました。

このような被災経験をした私は、防災や災害に興味関心がない未災者（地）への啓発や避難所環境改善・災害関連死防止に繋がるような活動をしたいと思い、今年 2 月に防災士を取得しました。日頃から富山県内外の防災活動にご尽力されている諸先輩方に学びながら、少しでも防災活動の一助になりたいと思います。

事務局からのお知らせ

第 42 号での案内に関連し、今回第 43 号発行前に皆様に会報のメール若しくは郵送配信の希望をお尋ねしたところです。今後は郵送配信からメールもしくはホームページを閲覧していただき、削減できた通信費はスキルアップ研修事業等の一層の充実を図り、会員の皆様に直接還元できるよう努めてまいります。

近い将来、ホームページの閲覧をご利用いただくことで完全電子化を目指したいと思いますので、皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。